

## 令和2年度 第6回 秋葉区自治協議会 会議概要（速報）

日 時 令和2年9月25日（金） 午後1時30分から午後4時まで

会 場 秋葉区役所6階 601・602会議室

出席者 【委員（名簿順）】

小林委員、蓮沼委員、阿部副会長、田中委員、佐々木(富)委員、湯田委員、松田委員、青木委員、保科委員、佐藤委員、前田委員、原委員、佐々木(美)委員、伊藤(治)委員、荒井委員、羽生委員、宮腰委員、金子会長、花水委員、伊藤(直)委員、島倉委員、本田委員、大貫委員  
計23名（欠席 古田委員、本多委員、伊藤(美)委員、川名委員、長谷川委員、渡邊委員、須田委員）

【秋葉区役所】

区長、副区長（地域総務課長）、区民生活課長、健康福祉課長、産業振興課長、建設課長、小須戸出張所長、秋葉消防署長、秋葉区教育支援センター所長、新津地区公民館長、新津図書館長

【新潟市役所】

廃棄物対策課長、こども政策課長

事務局 地域総務課職員4名

傍聴者 3名

報 道 2名

### 内 容

#### 1 開会

- ・会長あいさつ

#### 2 議事

##### （1）集団資源回収にかかる譲与物品について

廃棄物対策課長から、古紙市況が悪化し、回収コスト割れとなっていることから、回収業者への回収費用の一部を協力金として補填することを検討しており、その協力金の元手とするため、これまで集団資源回収のためにリヤカーや台車などの物品を各団体へ譲与していましたが、今年度で終了すると説明がありました。

資料1 集団資源回収にかかる回収用具譲与の終了について

##### （2）新潟市ファミリーサポートセンターについて

こども政策課長から、地域における子育て支援制度として平成24年度から開始されたファミリーサポートセンターについて、援助を受けたい人「依頼会員」に比べ、援助を行いたい人「提供会員」が相対的に少なく、依頼会員のニーズに十分応えること

が出来ていないため、提供会員の増加が喫緊の課題であると説明がありました。

また、提供会員となるための研修会の案内もありました。

委員からは、子育てが終了している世代はホームページをあまり閲覧しないので、自治・町内会の回覧板を活用するなど、周知を工夫した方が良いと意見がありました。

資料2 新潟市ファミリー・サポート・センターについて

### (3) 令和2年度第1回区自治協議会会長会議の開催について（報告）

金子会長から、8月20日（木）に開催された新潟市区自治協議会会長会議への出席報告がありました。

会議で各区の現状について情報共有を図った結果、コロナ禍における3つの課題「会議の開催方法、提案事業のあり方、防災強化に向けた役割」について、各区で検討することになりました。

資料3-1 令和2年度第1回新潟市区自治協議会会長会議

資料3-2 自治協会长会議で整理したコロナ禍における課題について

### (4) 新潟市国民保護協議会委員の推薦について（報告）

金子会長から、新潟市国民保護協議会委員には引き続き阿部副会長に就任をお願いし、新潟市国民保護協議会へ推薦をしたと報告がありました。

資料4 新潟市国民保護協議会委員の推薦について（依頼）

### (5) 子育て支援センター新津育ちの森の移転について

健康福祉課長から、子育て支援センター新津育ちの森の移転先について、新津健康センター1階に整備し、子育て支援体制のさらなる強化を図りたいと説明がありました。

また、移転後、新津健康センター内のホール機能を維持できるよう調整も進められています。

委員からは、区内のホール機能を有する施設が減ってしまうことを危惧する意見や母子検診会場のすぐ目に見えるところに子育て支援センターがあることは保護者にとって心強いのではないかなどの意見がありました。

資料5 子育て支援センター「新津育ちの森」の移転について

### (6) 令和3年度区自治協議会提案事業について

令和3年度区自治協議会提案事業の事業アイデアについて、提出した委員から事業内容の説明がありました。

今後、各部会で事業実施等について意見を出し合い、提案事業検討委員会において、事業実施の可否や予算等について協議していきます。

### (7) その他

#### ア 部会活動報告

(ア) 第1部会から、きらめきサポートプロジェクト二次募集の採択結果について報

告がありました。二次募集では、6団体から応募があったのち、小須戸コミュニティ協議会「在郷町小須戸ひな・町屋めぐり 2021」、NPO 法人新津郷土に親しむ会「新津の大庄屋桂家（仮称）の出版」、新津中央コミュニティ協議会「鉄道のまちにいつ ひなとお宝巡り」の3事業が採択されました。

(イ) 第2部会から、「秋葉区生活交通改善プラン」の交通施策の一つである地域の異動手段を検討する体制の構築として、当初は新たに協議体を立ち上げる考えでしたが、今年度は第2部会で取り組んでいくと報告がありました。

(ウ) 第3部会から、あきは子ども大学の実施について、これまでのマイクロバス移動ではなく、3密を避けて実施できる内容を検討していると報告がありました。

(エ) 広報部会から、かわら版 26号は各部会提案事業の活動状況をみながら、作業を進めていくと報告がありました。

資料番号なし	きらめきサポートプロジェクト二次募集	採択事業
--------	--------------------	------

### 3 閉会

副会長あいさつ

※詳細については、後日改めて掲載します。